

2018年度研究成果公開促進費（学術講演会等） 成果報告書

【報告者所属・氏名】

実践女子大学香雪記念資料館客員研究員・山盛弥生氏、山梨県立美術館学芸員・平林彰氏
東京藝術大学大学美術館准教授・古田亮氏（報告者、以上3名）
本学文学部美学美術史学科教授・仲町啓子（ディスカッション司会）

【タイトル】

「野口小蘋展 -女性南画家の近代-」シンポジウム

【開催日時・場所・来場者数】

日時：2018年11月17日（土）

13時30分 ～ 17時30分

場所：実践女子大学渋谷キャンパス創立120周年記念館 5階 501講義室

来場者数：85名

【学術的な成果】

幕末から近代にかけ、激動の時代に女性南画家として活躍した野口小蘋において、これまで詳しく知られることのなかった、①画業初期に多く描いた美人画から、明治26年(1893)頃より、生涯にわたり制作の中心となった山水画へ至るまでの画業の変遷、②小蘋の夫・正章の父であり、山梨県甲府市で酒造業を営んだ野口家4代目の当主・忠正と、小蘋やその師・日根対山、富岡鉄斎ら当代一流の画家や書家との間に見られる文人ネットワークの存在、③明治中後期の国家や美術界、あるいは男性社会等において、小蘋がどのように女性画家としての地位を確立していったのかという問題 についてご報告をいただいた。また、申請者の司会のもと、上記の問題に関するディスカッションを行った。これらの内容を通じ、来場者は女性南画家・野口小蘋について、より深く学習することができたものと考えている。

【広報面での成果】

大学および香雪記念資料館ホームページにおける告知、館内にシンポジウム告知チラシを常時置いたこと等から、当日は企画展の鑑賞と合わせてお越しくくださった方々をはじめ、近現代美術を専門とする研究者など、多くの方々に聴講いただくことができた。

【今後の課題・展開】

2020年度には、香雪記念資料館において江戸の女性画家展開催を企画している。来年度以降も、女性画家研究の調査研究成果をより多くの方々に発信し、魅力的な展覧会および関連企画を継続していきたい。